

三重県の気候風土に適した広葉樹の苗木育成技術の開発

令和 6～10 年度（執行委任：農林水産部みどり共生推進課）

海津江里

多様な主体による植樹活動やスギ、ヒノキ人工林伐採後の再造林時に広葉樹を植栽する場合は、植栽地に適した樹種選定や生物多様性に配慮した地域性苗木の使用が望まれる。今年度は、三重県内や近隣県での広葉樹苗木生産について視察を行うとともに、三重県内に広く分布するコナラ林やシイ・カシ二次林に生育すると考えられる高木性広葉樹樹種を対象に、種子採取から播種まで実施した。

1. 広葉樹苗木生産についての視察

三重県内で平成 20 年より地域性苗木生産を行っている大台町苗木生産協議会への視察を行い、聞き取り調査と苗木生産現場を見学した。また、近隣県で広葉樹の苗木生産について研究を行っている奈良県森林技術センターを視察した。聞き取り調査により、具体的な採取方法や育苗方法、樹種による注意点について情報収集を行い、苗木生産現場を見学し、育苗容器や苗木サイズ、育苗環境について確認した。

2. 広葉樹種子の採取と播種

令和 7 年 5 月から 6 月にヤマザクラの種子を津市白山町内で採取した。種子の採取は、主に枝からのもぎ取りと落下種子の採集により行った。平坦地にあり枝張り幅が大きい個体にはシードトラップの設置と枝への袋がけを併せて行った。この結果、果実が多く付く枝に袋がけすることで、まとまった量の種子を採取することが可能であったが、シードトラップと袋がけともに、枝張り幅が大きいヤマザクラの枝すべてをカバーすることは不可能であり、多くの種子はシードトラップ等に入らず落下したため、枝張り幅が大きい個体では、シードトラップ等より枝からのもぎ取りと落下種子の採集が適していると考えられた。採取した種子は、果肉を取り除いた後、湿らせたキッチンペーパーもしくは紙ワイパーで種子を包み、チャック付きポリ袋に入れて、冷蔵庫にて貯蔵した。貯蔵した種子は、8 月下旬には、冷蔵庫内で発芽がみられたため、8 月下旬から 9 月上旬に冷蔵庫内で発芽した種子 620 粒をセルトレイに播種した。

令和 7 年 9 月および 10 月には、津市白山町、伊賀市、菰野町にて、コナラ、アラカシ、クリ、スダジイ、クロガネモチ、アオハダについて、枝からの種子もぎ取りもしくは落下種子の採集により、種子を採取した。コナラ、アラカシ、クリの種子は、水選により浮いたものを取り除き、沈下した種子を湿らせたバーミキュライトと混ぜてチャック付きポリ袋に入れ、冷蔵庫で貯蔵した。令和 8 年 2 月に、ポリポット、M スターコンテナ、生分解性不織布コンテナにコナラを 563 粒、クリを 217 粒播種した。令和 8 年 3 月には、アラカシを上記と同じ 3 種類の容器に 522 粒播種した（写真-1）。クロガネモチおよびアオハダについては、ヤマザクラと同様に果肉を取り除いた後、種子を湿らせたキッチンペーパーもしくは紙ワイパーで包み、チャック付きポリ袋に入れて、冷蔵庫にて貯蔵し、令和 8 年 3 月にセルトレイに播種した。クロガネモチ、アオハダともに 1 セルにつき 3 粒ずつ入れ、540 セルに播種した。



写真-1. 生分解性不織布コンテナへのアラカシ播種状況